



平成30年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年4月13日

上場会社名 株式会社ほぼ日 上場取引所 東
 コード番号 3560 URL <https://www.hobonichi.co.jp/>
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）糸井重里
 問合せ先責任者（役職名）取締役CF0管理部長（氏名）篠田真貴子（TEL）03-5657-0033
 四半期報告書提出予定日 平成30年4月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成30年8月期第2四半期の業績（平成29年9月1日～平成30年2月28日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年8月期第2四半期	3,335	22.8	752	4.6	754	5.6	522	12.9
29年8月期第2四半期	2,714	—	719	—	714	—	462	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
30年8月期第2四半期	225.42		224.97					
29年8月期第2四半期	231.27		—					

- （注）1 平成29年8月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式はありましたが、平成29年8月期第2四半期末時点において当社株式は非上場であったため、期中平均株価が把握できませんので、記載していません。
- 2 当社は、平成28年12月22日付で普通株式1株を100株とする株式分割を行いました。なお、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しています。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年8月期第2四半期	4,353	3,458	79.4
29年8月期	4,228	2,991	70.8

（参考）自己資本 30年8月期第2四半期 3,458百万円 29年8月期 2,991百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年8月期	—	0.00	—	45.00	45.00
30年8月期	—	0.00	—	—	—
30年8月期(予想)	—	—	—	45.00	45.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年8月期の業績予想（平成29年9月1日～平成30年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,674	16.4	503	0.5	505	4.8	332	△2.4	143.69

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年8月期2Q	2,317,000株	29年8月期	2,316,000株
② 期末自己株式数	30年8月期2Q	一株	29年8月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年8月期2Q	2,316,600株	29年8月期2Q	2,000,000株

(注) 当社は、平成28年12月22日付で普通株式1株を100株とする株式分割を行いました。なお、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して株式数を算定しています。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて判断しており、多分に不確定要素を含んでいます。実際の業績は、業況の変化により予想数値と異なる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法)

平成30年4月23日（月）に機関投資家・アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。また、平成30年4月26日（木）に個人投資家向けのオンライン事業説明会を配信する予定です。

それぞれの説明会で配布する資料につきましては、開催後速やかに当社ホームページ <https://www.hobonichi.co.jp/> に掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における当社の経営成績は、次の表のとおりです。

	前第2四半期累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年2月28日)	対前年同期比 (増減額)	対前年同期比 (増減率)
売上高	2,714,970千円	3,335,252千円	620,281千円	22.8%
営業利益	719,479千円	752,516千円	33,036千円	4.6%
経常利益	714,421千円	754,472千円	40,051千円	5.6%
四半期純利益	462,549千円	522,200千円	59,650千円	12.9%

当社は、「夢に手足を。」つける会社であることを目指し、「やさしく、つよく、おもしろく。」を行動指針として、人びとに「いい時間」を味わってもらうため「場」を運営し、さまざまなコンテンツを提供しています。具体的には、ウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」、ギャラリーショップの「TOBICHI」、犬や猫と過ごす「いい時間」を軸にしたスマートフォン写真SNSアプリ「ドコノコ」、「いい時間」を味わう商店街というコンセプトのイベント「生活のたのしみ展」といった、人びとがよるこんで集まる「場」を築き、こうした「場」で商品を直接個人に販売する事業を営んでいます。主力商品の『ほぼ日手帳』並びにその他一部の商品及び書籍は、卸販売も行っています。『ほぼ日手帳』は年間売上の約3分の2を占めます。

当第2四半期における当社をとりまく事業環境として、個人のインターネット利用及びEC(電子商取引)利用が発展したことがあげられます。総務省によりますと、平成28年末の我が国のインターネット人口普及率は83.5%となりました。また経済産業省の調査では、平成28年の日本国内のBtoC-EC市場規模は、15.1兆円(前年比9.9%増)まで拡大しました。当社の主力商品である手帳の市場規模は、民間の調査結果によりますと、平成29年度では359億円(前年比0.8%増)と底堅い動きになっていると見られています。

こうした環境のもと、主力商品の『ほぼ日手帳』は、例年通り9月1日より2018年版を当社ウェブ通販並びにロフト等の店頭で販売開始しました。新判型『ほぼ日手帳weeks MEGA』を11月に、『ほぼ日5年手帳』を12月に投入し、それぞれ売上に寄与しました。また、米国のAmazon.com及び中国のWeChat上にそれぞれオフィシャルショップを開設するなど、海外ユーザーの拡大に努めました。これらの結果、販売部数は伸長し、『ほぼ日手帳』全体の売上は前年同期に比べ増加しました。

また、第2回「生活のたのしみ展」を、11月15日～19日に六本木ヒルズアリーナで開催しました。これは、「生活のたのしみ」という切り口で、当社がスタイリスト、クリエイター、ブランドを様々にセレクトし、靴、アパレル、生活雑貨、食品といった多彩な商品をプロデュースして商店街のように実店舗展開した販売イベントです。平成29年3月開催の第1回と比較して店舗数を倍増させ、会期を3日から5日に伸ばしました。5日間トータルで取引件数は約31,600件となり、売上に貢献しました。

さらに、新商品『ほぼ日のアースボール』を12月に発売しました。一般の地球儀とは異なる、軽くてやわらかい素材を使用し、専用アプリをインストールしたスマートフォンやタブレット端末をかざすと、AR技術により世界各国の写真や動画、テキストなどにアクセスできます。直販、卸共に好調で、売上伸長に貢献しました。これらの結果、売上は3,335,252千円(前年同期比22.8%増)となりました。

「生活のたのしみ展」の仕入れ販売など、原価率が相対的に高い商品が売上伸長を牽引したこと、商品構成の広がりによって商品評価損が発生したことから、売上原価が増加しました。また、販売費及び一般管理費においては、売上増に伴い、発送費が前年同期に比べ増加しました。さらに、中長期の成長に向けて人材採用及び外部人材への業務委託を積極化したこと、「生活のたのしみ展」の開催費用の発生、新規株式上場に伴い、資本金が増加し外形標準課税対象となったことで租税公課が前年同期比で増加したこと等により販売費及び一般管理費が増加し、営業利益は752,516千円(前年同期比4.6%増)、経常利益は754,472千円(前年同期比5.6%増)となりました。繰延税金資産の計上に伴い法人税等調整額△27,327千円を計上し、四半期純利益は522,200千円(前年同期比12.9%増)となりました。

上記の業績は、当社の運営する「場」が人と社会への肯定感に根ざした姿勢のコンテンツを活発に発信し、人び

とがよろこんで集まったことによりもたらされたと考えています。当第2四半期累計期間においては、さまざまな古典を学ぶ場となる「ほぼ日の学校」を平成30年1月から開設しました。第1期はシェイクスピアをテーマに、様々な社外講師による全14回の連続講座を予定しています。ウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」では、読者投稿コンテンツ「観たぞ、平昌オリンピック！」や、ヤマトホールディングス取締役会長の木川眞さんと糸井重里による働き方とサービスの価値についての対談などが、多くのユーザーを集めました。ギャラリーショップ「TOBICHI」では、人間国宝・志村ふくみ氏の技術と精神を受けつぐアトリエシムラの着物展示販売会、漫画家キューライスさんの初個展、画家の笹尾光彦さんの原画展(Bunkamuraギャラリーと同時開催)などを開催しました。犬や猫の写真SNSアプリ「ドコノコ」は平成30年2月までに約18万ダウンロードを達成しました。

このように、当社は運営する「場」において、さまざまなコンテンツを提供しています。コンテンツとはクリエイティブの集積であり、読み物、キャラクター、画像、イベント、モノのかたちの商品、すべてがコンテンツであると考えられています。当社は、生活のたのしみとなるような「いい時間」を味わってもらう、そのためのコンテンツをつくったり、仕入れたり、育てたり、編集したりして、お届けしています。業績は、こうした活動の結果と考えています。

なお、当社は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しています。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度 (平成29年8月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年2月28日)	前事業年度末比増減
資産合計	4,228,428千円	4,353,560千円	125,131千円
負債合計	1,236,484千円	895,263千円	△341,220千円
純資産合計	2,991,944千円	3,458,297千円	466,352千円

(資産の部)

流動資産は、3,577,528千円と前事業年度末に比べて54,194千円の増加となりました。これは主に現金及び預金の増加665,066千円と、売掛金の減少256,838千円、商品の減少337,341千円によるものです。

有形固定資産は、157,049千円と前事業年度末に比べて13,342千円の減少となりました。これは主に減価償却によるものです。

無形固定資産は、40,650千円と前事業年度末に比べて19,962千円の増加となりました。これは主にソフトウェアの取得によるものです。

投資その他の資産は、578,331千円と前事業年度末に比べて64,317千円の増加となりました。これは主に投資有価証券の評価額の増加68,226千円によるものです。

(負債の部)

流動負債は、722,251千円と前事業年度末に比べて357,453千円の減少となりました。これは主に買掛金の減少532,253千円と、未払法人税等の増加153,321千円によるものです。

固定負債は、173,011千円と前事業年度末に比べて16,232千円の増加となりました。これは主に退職給付引当金の増加4,527千円によるものです。

(純資産の部)

純資産の部は、3,458,297千円と前事業年度末に比べて466,352千円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加417,980千円によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物は2,575,562千円と前事業年度と比べ665,066千円の増加となりました。

当四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りです。

	前第2四半期累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年2月28日)	対前年同期比 (増減額)
営業活動による キャッシュ・フロー	560,121千円	788,670千円	228,548千円
投資活動による キャッシュ・フロー	6,182千円	△20,998千円	△27,181千円
財務活動による キャッシュ・フロー	△94,570千円	△103,694千円	△9,124千円

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、788,670千円の純収入となりました。これは主に仕入債務の減少額532,253千円、税引前四半期純利益759,911千円、及びたな卸資産の減少額357,494千円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、20,998千円の純支出となりました。これは主に無形固定資産の取得に24,121千円を支出したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、103,694千円の純支出となりました。これは主に配当金の支払額104,114千円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

	平成30年8月期 予想	平成29年8月期 実績	対前期増減率
売上高	4,674百万円	4,016百万円	16.4%
営業利益	503百万円	500百万円	0.5%
経常利益	505百万円	482百万円	4.8%
当期純利益	332百万円	340百万円	△2.4%

平成30年8月期の業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、平成29年10月12日に発表いたしました通期の業績予想数値に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成29年8月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,910,495	2,575,562
売掛金	653,669	396,831
商品	808,902	471,561
仕掛品	31,537	11,384
貯蔵品	2,341	2,213
その他	119,737	126,866
貸倒引当金	△3,350	△6,889
流動資産合計	3,523,334	3,577,528
固定資産		
有形固定資産		
建物	162,777	162,887
工具、器具及び備品	105,573	105,473
その他	3,060	3,060
減価償却累計額	△101,019	△114,372
有形固定資産合計	170,392	157,049
無形固定資産		
投資その他の資産	20,688	40,650
投資有価証券	410,306	478,533
その他	103,707	99,797
投資その他の資産合計	514,014	578,331
固定資産合計	705,094	776,031
資産合計	4,228,428	4,353,560
負債の部		
流動負債		
買掛金	753,637	221,384
賞与引当金	63,497	36,037
未払法人税等	128,493	281,814
その他	134,076	183,015
流動負債合計	1,079,704	722,251
固定負債		
退職給付引当金	92,856	97,383
資産除去債務	42,925	43,037
その他	20,998	32,590
固定負債合計	156,779	173,011
負債合計	1,236,484	895,263
純資産の部		
株主資本		
資本金	347,839	348,361
資本剰余金	337,839	338,361
利益剰余金	2,231,848	2,649,828
株主資本合計	2,917,526	3,336,550
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	74,418	121,746
評価・換算差額等合計	74,418	121,746
純資産合計	2,991,944	3,458,297
負債純資産合計	4,228,428	4,353,560

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年2月28日)
売上高	2,714,970	3,335,252
売上原価	1,036,017	1,405,711
売上総利益	1,678,952	1,929,540
販売費及び一般管理費	959,472	1,177,023
営業利益	719,479	752,516
営業外収益		
受取利息	12	10
業務受託料	994	1,270
その他	548	2,568
営業外収益合計	1,555	3,848
営業外費用		
株式公開費用	5,721	—
その他	891	1,891
営業外費用合計	6,613	1,891
経常利益	714,421	754,472
特別利益		
保険解約返戻金	18,142	5,438
特別利益合計	18,142	5,438
税引前四半期純利益	732,564	759,911
法人税、住民税及び事業税	264,450	265,038
法人税等調整額	5,564	△27,327
法人税等合計	270,014	237,711
四半期純利益	462,549	522,200

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	732,564	759,911
減価償却費	18,025	18,554
貸倒引当金の増減額(△は減少)	152	3,539
賞与引当金の増減額(△は減少)	△22,738	△27,460
退職給付引当金の増減額(△は減少)	8,904	4,527
受取利息及び受取配当金	△12	△10
株式公開費用	5,721	—
為替差損益(△は益)	—	△1,089
売上債権の増減額(△は増加)	249,977	256,838
たな卸資産の増減額(△は増加)	188,409	357,494
貯蔵品の増減額(△は増加)	△42	128
その他の資産の増減額(△は増加)	1,719	19,639
仕入債務の増減額(△は減少)	△484,793	△532,253
保険解約返戻金	△18,142	△5,438
その他の負債の増減額(△は減少)	16,349	45,992
その他	25	4
小計	696,118	900,377
利息及び配当金の受取額	12	10
法人税等の支払額	△136,009	△111,717
営業活動によるキャッシュ・フロー	560,121	788,670
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,047	△2,315
無形固定資産の取得による支出	△4,497	△24,121
保険積立金の解約による収入	18,142	5,438
その他	△1,414	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,182	△20,998
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	1,043
株式公開費用の支出	△4,027	—
配当金の支払額	△90,000	△104,114
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△542	△623
財務活動によるキャッシュ・フロー	△94,570	△103,694
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	1,089
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	471,734	665,066
現金及び現金同等物の期首残高	1,128,760	1,910,495
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,600,495	2,575,562

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。